

ガイドラインの目次（案）について（案）

本検討会は、現時点での予防的な観点からの取組として、国内での使用実態、毒性情報、環境管理技術等をまとめた「環境保全ガイドライン」を策定することを目的としている。これまでの検討及び諸外国関係機関等の動向も踏まえ、現時点におけるガイドラインの目次案を示す。

工業用ナノ材料による環境影響を未然に防止するためのガイドライン（仮称）

目次タイトル（案）（○は主な記載内容を示す）	およその分量 （頁数）
はじめに	
○ 背景（ナノ材料利用の拡大、ガイドラインの必要性）	1
○ 本ガイドラインの位置づけ	1
－ 現時点での情報・知見の把握・発信	
－ 優先的な取組課題の明確化	
－ 当面の対応の基本的考え方の提示	
	1
1. 検討の対象とするナノ材料の整理	
1. 1 ナノ材料の定義	1
○ ナノ材料の定義情報の概要（主に ISO 資料から抜粋）	
1. 2 ナノ材料の種類及び用途、使用状況、開発状況	
○ ナノ材料の種類（OECD 提示の 14 種類、その他）	1
○ 用途、使用状況、開発状況	2
1. 3 主な検討対象とするナノ材料	1
OECD での扱い、国内での使用量、形状等からの分類（有害性にも活用）、用途等から見た環境への放出の可能性及び放出経路等を集約し、グルーピング。	
2. ナノ材料の有害性評価の現状と課題	
2. 1 ヒトへの毒性	2
2. 2 生態毒性	2
2. 3 ナノ材料の特徴と毒性メカニズム（大きな比表面積、表面活性等）	1
2. 4 試験方法及び課題	2
3. 測定方法と環境中ばく露の現状と課題	
3. 1 測定技術	2
3. 2 環境中での測定事例	1
3. 3 環境中における挙動（分散、凝集、移動・・・）	1
3. 4 測定方法及び課題	
4. ナノ材料の使用の実態と環境放出の可能性	
4. 1 ナノ材料のライフサイクルと想定するばく露シナリオ	1
4. 2 具体的な例による検討	2

5. 管理方策	
5. 1 管理の方針	0.5
5. 2 各段階における管理の実態／既存技術による処理可能性	2.5
5. 3 留意点	1
6. 今後の課題	1
今後必要な調査研究等を含む。	

本文合計	27
------	----

参考資料

1 検討会委員名簿、開催状況	1
2 有害性に関する知見の整理	3
3 測定方法（原理等の整理表）	2
4 環境への放出の可能性（整理集約表）	3
5 国内外の取組の現状と動向（整理集約表）	2
（試験方法について OECD での進展／公表情報があれば追加）	

参考資料合計	10
--------	----

総計 約 40 ページ